

住み続けられるまちづくりを私たちが～ならかわ桜プロジェクト～

長野県塩尻市 × 認可地縁団体 奈良井区自治協議会

取組概要

塩尻市檜川地区（旧木曾郡檜川村の三地区（奈良井、平沢、贄川））の自治協議会が、地域活性化プラットフォーム事業を活用し、住み続けられるまちづくりを行うプロジェクト。地域住民と自治体、小中学校、民間企業とのパートナーシップにより、桜の樹勢回復や老朽化施設の改修を行うと共に、地域の観光資源を再発掘し、短歌を絡めて発信するWebサイトを構築。



作業風景（桜の樹勢回復）



作業風景（公衆トイレの改修）

基本情報

代表地方公共団体	長野県塩尻市
代表民間団体	認可地縁団体 奈良井区自治協議会
他の連携団体等	平沢区自治協議会、贄川区自治協議会、檜川小中学校、塩尻市森林公社、木曾森林組合、日本ペイント（株）
カテゴリ	環境保全対策／都市景観整備／観光客の誘致
事業費	202万円（令和4年度）（1年ごと予算を取りながら毎年継続予定）
めざすSDGsゴール	
事業化までの期間	2021年11月～2022年3月（準備委員会）、2022年4月～（正式に活動開始）

取組内容



訪れた人のための案内サインの整備



魅力満載の地域を短歌のしらべにのせて発信

この取組で解決した課題	<p>【桜の樹勢の衰え（てんぐ巣病）】地域の桜がてんぐ巣病に犯され、近年樹勢の衰えが散見されていた。中山道の街道筋で宿場町や漆工町を観光資源としてこの地域にとっては、アフターコロナを見据えた際に、再び観光客をおもてなしするのに桜が元気でないことが大きな課題となっていた。</p> <p>【老朽化した公衆トイレ】「贄川の森公園」は、マレットゴルフ場やバーベキューコーナーがあり地元住民の憩いの場であると同時に、中山道の街道筋であるため、街道ウォーキングを楽しむ旅人が多く訪れるが、ここに設置されているトイレが老朽化により使いづらくなっていた。</p> <p>【埋もれた観光資源】木曾谷、中山道、宿場町、漆工町などの風景をはじめとして、地域には素晴らしい観光資源がたくさんあるにも関わらず、効果的・有機的に活用できていなかった。</p>
解決に向けた手法	<p>檜川地区の3つの自治協議会（奈良井区、平沢区、贄川区）が、住民の中から「住み続けられるまちづくり」に賛同する20代～80代の有志を募り「ならかわ桜プロジェクト」を立ち上げた。</p> <p>【桜の樹勢回復作業】では、（一社）塩尻市森林公社の林政アドバイザーから病気の枝の見分け方、枝払いの方法、殺菌剤の塗布方法などの指導を受けた後、適期である冬期に数回に分けてメンバーが作業を実施した。</p> <p>【公衆トイレの改修】では、日本ペイント（株）より塗料の提供を受け、内外装の塗装を行ったほか、照明のLED化、大型サインの新設、周辺支障木の伐採等をメンバーで実施した。</p> <p>【地域の魅力の再発掘と発信】では、発掘した地域の魅力を単に写真や解説だけでなく、その場について詠んだ短歌とともにWebサイトで発信した。</p>

取組詳細

事業推進上の各団体の役割分担	<p>[自治協議会（費川区、平沢区、奈良井区）]：プロジェクトメンバーの選出、実質的な作業、地域内のコンセンサス取得</p> <p>[塩尻市榑川支所]：事務局として、事業費の確保（塩尻市地域活性化プラットフォーム事業）、Webサイトの立ち上げ、榑川小中学校への協力要請、広報誌への情報配信など</p> <p>[榑川小中学校]：地域の魅力の抽出、各種作業への参加、[日本ペイント（株）]：公衆トイレ塗装用の塗料の提供</p>
地域関係者との連携方法	<p>域内の全世帯に配布される「広報しおじり」に、同プロジェクトの活動内容をまとめた「ならかわ桜プロジェクト通信」を折り込み、参画メンバーを募った。また、「榑川地区振興協議会だより」にも活動状況の報告を掲載した（これらにより広く地域住民の理解と賛同を得ることができ、メンバーが倍増）。榑川小中学校の生徒が取り組む「ならかわ大学」と連携し、地域課題を抽出し、地域資源を発信するための打合せを実施した。</p>
資金調達方法	<p>補助金：塩尻市地域活性化プラットフォーム事業（190万円）</p> <p>賛助金：奈良井区、平沢区、費川区自治協議会（12万円）</p>
資金調達方法の補足	<p>プロジェクト事務局により、上記補助金の審査会に向け20ページにわたるプレゼン資料を作成し、同プロジェクトの重要性と必要性を訴えた。</p>
事業推進上の課題・工夫	<p>補助金を得られたものの、十分とは言えなかったため、プロジェクトの趣旨に賛同する企業に必要資材の提供を呼びかけたり、専門知識を要する作業については、プロジェクトメンバーの中で資格やスキルを持つものを充てるなどして補った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公衆トイレ塗装用の塗料の提供：日本ペイント（株） ・公衆トイレのLED化：電気工事技士の資格を持つメンバーが担当 ・支障木の伐採：森林組合に勤務するメンバーが担当 ・Webサイト構築、サインのデザイン：ITスキルのあるメンバーが担当

担当者のコメント

きっかけは、地域の桜が病気にかかり、きれいに咲かなくなったことを憂う80代女性の切なる訴えでした。これを周囲に相談したところ、ほどなくして賛同者が集まり、さらには対策方法を知る林業従事者の協力が得られました。地域中で世代や職域を超え、相互にコミュニケーションを取ることで新たなパートナーシップが生まれ、打開策が見えてきました。

住民の志は高く、幅広い世代に渡っており、「私も何かの役に立ちたい」という思いは随所に散らばっています。素晴らしいアイデアや高いスキルを持つ人もいます。しかしそれらは埋もれているので、地域に課題があるならば、まずは皆に届く適切な方法で共有することで、賛同や改善案、パートナーシップが生まれ、はじめて有機的に機能するのだと実感しました。

古くから続く宿場町や漆工町を持つこの地域にとっては、「9.産業の基盤」を今一度固め「8.経済成長」を促すことが「11.住み続けられるまちづくり」には不可欠です。それを闇雲に誰かに頼るのではなく、住民同士、自治体、団体、企業などの「17.パートナーシップ」によって互いの強みを有機的に結合させることが必須だと実感しました。



プロジェクト立ち上げ時の打合せの様子

優良事例応募項目

取組のポイント（3つの視点）	<p>①地方創生SDGsの視点 このプロジェクトは自治体や企業、学校と地域住民とのパートナーシップによって、この地区の喫緊の課題である人口減少を抑え、魅力的で住み続けられるまちづくりを目指すものです。 榑川地区は中山道の街道筋であり、奈良井宿は江戸の宿場の町並みがそのまま残され、漆器店が軒を連ねる木曾平沢は、漆工町として国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されています。 これほど素晴らしい地域でありながら人口減少が続くのはなぜか…。それは、魅力ある地域資源がきちんと整備されていないからではないか、魅力がきちんと伝わっていないのではないかと考え、これらの課題を自らの手で改善したいという思いからスタートしました。</p> <p>②ステークホルダーとの連携 プロジェクトは塩尻市と榑川地区の3つの自治協議会（奈良井区、平沢区、費川区）、榑川小中学校および企業と住民有志からなり、これまで実施した「桜の樹勢回復」や「公衆トイレの改修」、「Webサイトの構築」などの活動は、全戸に配布される広報誌によって配信され、プロジェクトに対する理解と協力（資材の提供やメンバーとしての参画など）を得ながら地域一体となって進められています。生徒自らWebサイトを更新することにより、地域への誇りや愛着心の醸成にもつながっています。</p> <p>③モデル性・波及性 メンバーの中に電気工事の資格を持つもの、木を熟知しているもの、ITのスキルがあるものなどがいるため、作業の内容に応じて適任者がリーダーとなって他のメンバーをリードするなど、メンバー自らが行動することを基本としています。 またプロジェクトの理念に賛同していただける企業に働きかけ、資材やノウハウの提供を受けるなど、極力費用を抑え、再発掘した地域資源をWebサイトで発信する際には、「短歌の里塩尻」という特色をいかして、その情景にあった短歌を添えて発信するなどの工夫をしています。</p>
----------------	--